

色絵金彩菊貼付香炉

沈寿官 明治26年(1893) 1点 陶磁 径17.5 高38.9



明治期の薩摩焼を代表する陶工十二代沈寿官(1835~1906)による香炉。竹籠をイメージした香炉本体に、その周囲を金彩と色絵を施した無数の菊花の花束で埋め尽くす、多彩な作風を誇る沈寿官のなかでも異色の作例である。当初は、〔南溜の間〕に同意匠の花瓶一对と組で飾られていたらしく、花鳥文様が主体となった明治宮殿を飾った陶磁のなかでも、白眉というべき作品である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

幻の室内装飾 ― 明治宮殿の再現を試みる

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 56

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十三年九月二十三日発行

© 2011 The Museum of the Imperial Collections